

えりもしゃくなげ



発行者 教育長 川上松美 (代)01466-2-2525

http://www.town.erimo.lg.jp/section/

kyouiku/sg6h94000000pqh.html

令和5年を迎えて

新しい年がスタートしますが、本年度は、一層、幼・小、小・中、小中高の連携、接続を図って、一步一步、えりもの教育の充実に努めます

○新年あけましておめでとうございます。

○町民の皆様には、これまで教育行政へのご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

○令和4年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、できるだけ、正常な形の学校生活になるよう、各学校では工夫を凝らして教育活動を進めてまいりました。

○お陰様で、運動会や体育大会、修学旅行も予定通り進められ、何とか子どもたちもストレスを解消し学習に励むことができました。

○本年も引き続き感染対策の徹底は続けなければなりません、出来る限り通常教育活動となるよう進めてまいります。

○また、学校教育においては、急激な社会の変化の中で、これまでにはなかった課題が山積しておりますが、教育委員会だより「えりもしゃくなげ」や町広報紙などをおして、皆様には様子をお伝えし、一層、ご理解とご協力をいただきたいと思います。

知ってほしい えりも高校の魅力

○一人一人の希望を叶える進学・就職ともにすばらしい実績

学校運営協議会代表者会議で、えりも高校の 佐藤真弥子先生 からメリットである6点について話されました

○12月1日、福祉センターで各学校の学校運営協議会委員の代表と学校長、町地域学校推進委員、教育委員が一堂に会し会議が開かれました。○前半は各学校の学校運営協議会の報告、後半には『えりも高校の未来について考える』をテーマに、熱心な話し合いがもたれる熟議となる会議となりました。



えりも高校の総務部長（佐藤真弥子教諭）が強調した6つの魅力（6つのメリット）とは、どのようなものか

◆メリット1

同規模（2間口40人学級）の学校と比較して教員の数が多い（間口とは学級数のこと）各教科の教員の配置数（管理職を除く）
国語3、社会2、数学3、理科2、英語4、体育2、家庭1、商業2、養護教諭1名

・この規模の高校であれば、各学年1クラスで教員は各1名、養護教諭もいないこともあります。

◆メリット2

生徒の特性に合わせた配置がしやすい

- ・授業（教職員が多いこと）
習熟度別（国語・数学・英語）
チームティーチング（情報）
↳ 複数の先生で授業をすること
- ・部活動
3～2名で担当

・進路に応じた科目を設置できることや、個々の特性に分かれて授業を行うことができるという点です。

・進路選択に必要であれば、現在は生徒1名でも授業を受けることができます。また、高校入学段階で理解度に差が出やすい数学や英語は、3つのクラスに分かれて実施しています。

・少人数学習になることで、教員も一人一人に目が届きやすい環境です。

・部活動は、1人で顧問を担当することがなく、

複数で対応しています。また、教員数が多いことで、自分に合った教員を生徒が選ぶことができることは大きなメリットと言えます。

◆メリット3

家族に見守られ過ごすことができます。そして、保護者や地域の方とかかわりながら高校生活を送れます。

- ・なんと言っても、家族に見守られながら過ごせるというところです。
- ・15歳から18歳までの多感な3年間を親元で暮らしながら高校生活を送ることができることは大きなメリットです。
- ・一人暮らしや寮生活と比べ、経済的にも安心ですし、親元で生活することは、高校生活を安定して過ごすことに大きく寄与します。
- ・えりも高校では、高校を卒業後、多くの子もたちが進学や就職でえりも町を離れて過ごすこととなります。
- ・保護者や地域の方に見守られて過ごす最後の期間がこの3年間と言ってもよいのではないのでしょうか。

◆メリット4

中高一貫教育による取組 (1)

- ・高校の教員が中学校の授業を担当します。
12月現在

数学 1年生 (週4時間)
英語 1・2年生 (週4時間)
社会 2年生 (週4時間)

- ・えりも高校と中高一貫教育にあるえりも中学生のメリットとなります。

- ・高校の教員が中学校に行っていますが、今年度は1週間に計12時間授業を行っています。また、体育は合同授業も行っています。
- ・2月には、高校から多くの教員が中学校に向き、3年生を対象に中学の学習の「総まとめ」ということで、中学校の教員と一緒に授業を行います。

◆メリット5

中高一貫教育による取組 (2)

- ・えりも高校説明会 (4月)
えりも中学校全学年の保護者対象
- ・進路別ガイダンス (10月)
高校生と一緒に中3生が興味に応じた講義を受講

- ・そのほか、保護者を対象にして、えりも中学校の参観日に説明会を実施しています。秋には興味のある進路に合わせて、大学や専門学校などから講師の先生を招いて授業を行ってもらいますが、中3生も一緒に参加しています。

◆メリット6

中高一貫教育による取組 (3)

- ・中学生面談 (11月)
高校進学や将来について、面談形式で行います。今年からは、その場でフィードバックの時間も確保します。(中3生対象)

- ・11月には、高校進学に向けて、高校の教員と中3生で1対1の面談を行います。今年からは面談後に本人にこの後すべきことなど、フィードバックする時間も設けて実施しました。

- ・受験に向けて、意識を高める良い機会になっていると聞いています。
- ・中高一貫での連携が中学生にとっても実りあるものとなっていると言えます。

えりも高校 村木校長からは、間口と教員数、設置教科・科目数について、道立高校の場合と比較して、えりも高校の魅力が説明されました

- ◆2間口から1間口になった場合の公立高校の教員数

○2間口の教員数の比較

道立高校 (標準) とえりも高校の比較

	校長・教頭	教員数	合計
道立高校	2	17	19
えりも高校	2	22	24

- ①今年度は多様な教科・科目 (45科目以上)、職業科目設置 (10単位以上) 及び初任研加配の3名が増加
- ②町単費2名の配置

○1間口になった時の教員数

	校長・教頭	教員数	合計
1間口定数	1 (教頭欠)	8	9

- ①教頭は未配置になるため、町単費で確保することが必要です。
- ②えりも町の場合、2間口同様に2名の加配配置とする場合、教頭1名、教員1名の配置となることが想定されます。

次号では、科目数や進学合格・就職内定について、実績を報告します